

レスポンシブル・ケア 活動報告書2024





保安と安全を確保し、自然環境との調和
および地域との共生を大切にする事業所をめざして

もくじ

1	事業所長メッセージ	2
2	事業所概要	3
3	広島事業所RC方針	5
4	KAITEKI広島事業所の実現	6
5	環境保全について	7
6	保安防災について	14
7	労働安全衛生について	18
8	化学品・製品安全について	21
9	物流安全について	22
10	事業所内活動の紹介	22
11	地域の皆様と共に	26
12	最後に	30

レスポンシブル・ケア(RC)とは

化学品を取り扱う企業が、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動のことを「レスポンシブル・ケア」活動と呼んでいます。

レスポンシブル・ケア活動報告書2024は、2023年4月～2024年3月までの活動内容を対象としていますが、2024年度の活動内容も一部含みます。

1 事業所長メッセージ



清水事業所長

私たち三菱ケミカルグループは、革新的なソリューションで、人・社会そして地球の心地よさが続いていくKAITEKIの実現をリードしていくことをめざしています。

国内主要生産拠点の一つである広島事業所は、「化成品」「樹脂」「繊維」といった、人々の生活に役立つ幅広い製品を生産しています。私たちは、生産活動を通してKAITEKIに貢献するために、次の3つを事業所のありたい姿として掲げています。

【安全環境】

保安と安全を確保し、自然環境との調和および地域との共生を大切にする事業所

【技術・ものづくり】

夢ある技術・製品を生み出し、新たな価値を発信する事業所

【マインド】

働く人ひとりひとりが誇りと熱意を持ち切磋琢磨して成長し続ける事業所

このありたい姿の中で【安全環境】を実現するために「保安安全」、「環境保全」、「品質保証」、「化学品安全」、「物流安全」を5本柱とするRC(レスポンシブル・ケア)活動を展開しています。

私たちのRC活動を皆様へご理解いただけるよう「活動報告書」を発行いたしました。

本報告書をご一読いただき、取り組みについて忌憚のないご意見及びご感想をお寄せいただけると幸いです。

最後に、私たちは多くのステークホルダーの皆様に支えられて、事業所を運営しています。皆様とのつながりを大切にし、より信頼される事業所をめざして取り組んでまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

三菱ケミカル株式会社 広島事業所

事業所長 清水 和博

三菱ケミカルグループ (MCGグループ)

三菱ケミカルグループ株式会社とそのグループ会社の総称です。

KAITEKI

KAITEKIとは、「人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくこと」を表し、環境・社会課題の解決にとどまらず、社会そして地球の持続可能な発展に取り組むことを提案したMCGグループオリジナルのコンセプトです。

2 事業所概要

広島事業所は、1933年にレーヨンステーブルのメーカーとして設立された新興人絹株式会社の工場として当地に誘致を受け、我が国初のレーヨンステーブル工場としてスタートしました。

以来、その生産品目を拡大し、現在では合成繊維(アクリル繊維)、合成樹脂(アクリル樹脂、ABS樹脂)等を原料から一貫生産する、三菱ケミカルグループの中核事業会社の主要生産拠点として重要な役割を担っています。

～大竹工場操業開始から
90年となりました～

○沿革

- 1933年 新興人絹株式会社を創立
- 1934年 レーヨンステーブルの初紡糸に成功
- 1934年 大竹工場操業開始
- 1952年 社名を三菱レイヨン株式会社に改称
- 1959年 三菱ボンネル株式会社広島工場 操業開始
- 1970年 三菱ボンネル株式会社広島工場を統合
日東化学工業株式会社 操業開始
- 1983年 新合成株式会社広島工場 操業開始
- 1991年 新合成株式会社と合併
- 1998年 日東化学工業株式会社と合併
- 2009年 ルーサイト・インターナショナルと経営統合
- 2010年 株式会社三菱ケミカルホールディングスと経営統合
- 2017年 三菱化学株式会社、三菱樹脂株式会社、
三菱レイヨン株式会社の三社が統合し
三菱ケミカル株式会社発足
- 2019年 事業所名を大竹事業所から広島事業所に改称
- 2022年 株式会社三菱ケミカルホールディングスが
三菱ケミカルグループ株式会社へ社名変更

○所在地

広島県大竹市御幸町20番1号

○敷地面積

947,934㎡(福利厚生用地含)

マツダZoom-Zoomスタジアム広島約19個分

○従業員数

1,636名 2024年3月現在



○エネルギー使用量

電気 3億546万kwh/年

○大気排出量

CO2 51万9千トン/年

○水使用量

上水及び河川水 2,297万m3/年

海水 5,483万m3/年

○公共水域排水量

..... 6,556万m3/年

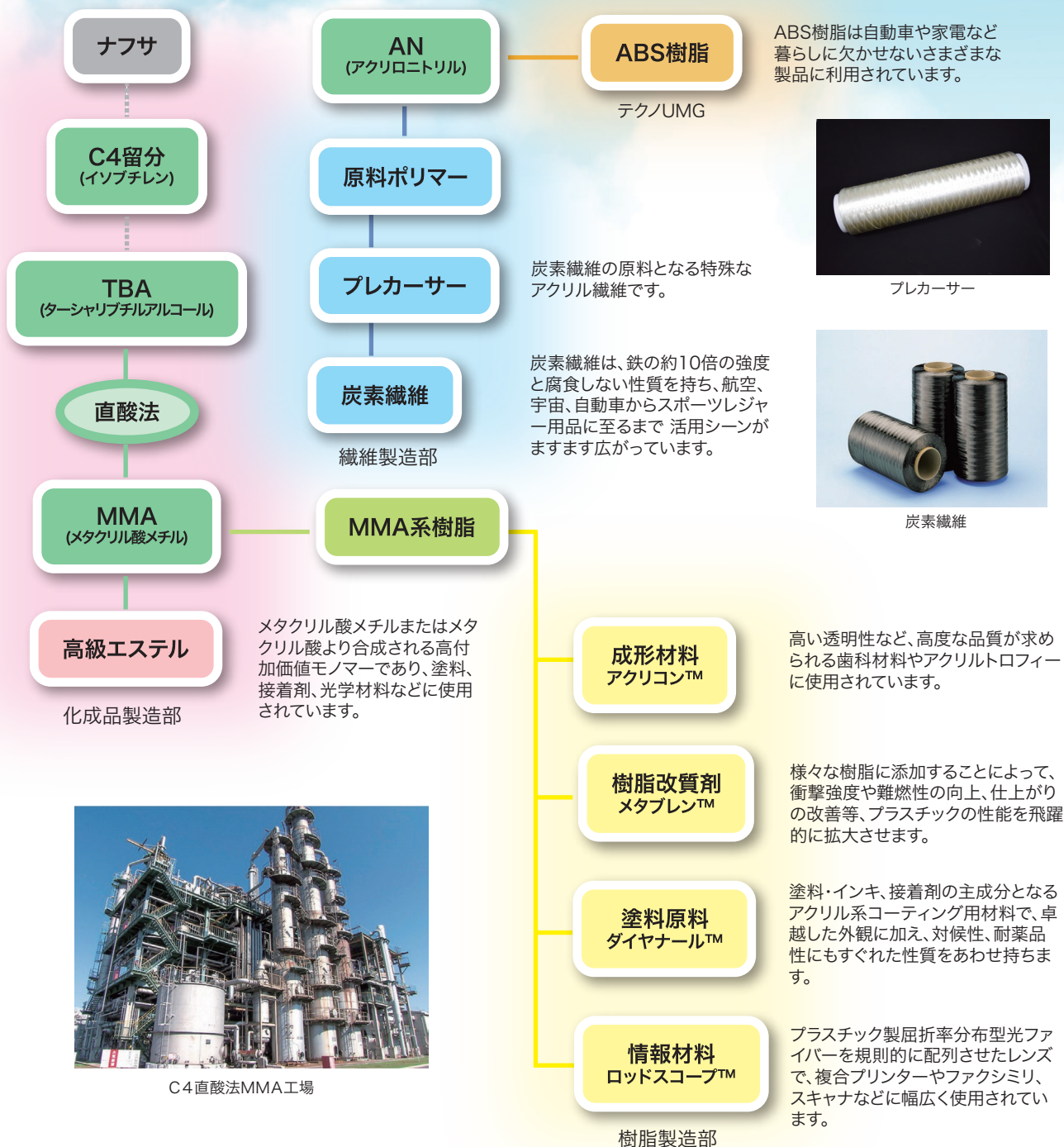
○グループ会社等

三菱ケミカルエンジニアリング株式会社
ダイヤリックス株式会社
エムシーパートナーズ株式会社
エムイーシーテクノ株式会社
テクノUMG株式会社
MCC-SGLプレカーサー株式会社
三菱ケミカル物流株式会社

広島事業所 主要製品

※ANおよびACH法のMMAの生産は2024年7月に終了しました。

広島事業所では、原油から留出される「ナフサ」を基に、「化成品」、「樹脂」、「繊維」という3つの製造部を中心に各種製品を作っています。



3 広島事業所RC方針

三菱ケミカルは、化学産業界の自主的な環境・健康・安全を確保する活動であるレスポンシブル・ケア(RC)活動を推進しています。私たちは「三菱ケミカルグループ企業行動憲章」に則り「保安防災」「労働安全衛生」「環境保全」「化学品・製品安全」「物流安全」を5本柱としたRC活動を推進することで、KAITEKIの実現をめざします。

広島事業所 RC方針

広島事業所 RC方針

広島事業所は、KAITEKI社会の実現に貢献するため、本社「環境安全理念」、「環境安全に関する方針」及びプロダクトスチュワードシップに係る基本方針に基づき、RC方針を以下の通り定める。また、この方針が全ての就業者に周知され理解されるとともに、適切に実施されることに努める。

1. 法令はもとより企業倫理を含めた社会的ルールを遵守する

保安・環境事故や労働災害の防止、安全安定運転の実現と顧客の要求する品質の確保を可能にし、顧客の信頼や社会の期待に応えるために法令や社内規則を一人ひとりが理解し遵守する。

2. 事故及び労働災害のゼロを追求する

プロセスの運転管理レベルを向上させ、また設備管理の充実により、危険源に対して適切な対策を講ずることで、事故及び労働災害のゼロを追求する。

3. 地球温暖化防止及び自然環境保護のために環境負荷を低減する

事業活動を通じ、省資源、省エネルギーの推進、廃棄物の削減など健全な環境の維持・向上に努める。さらに、新技術や新製品の研究・開発を通して環境負荷の低減を推進し、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現に貢献していく。

4. 化学品に関する最新情報の収集整備に努め、化学品を適正に管理する

化学品の取扱い時や製品の輸送、使用、廃棄等における事故・災害を防止するため、化学品に関する最新情報の収集整備に努め、化学品を適正に管理する。

5. お客様の視点に立ち 安全で高品質な製品・サービスを提供する

お客様の望む品質をベストなコスト・タイミングで提供し、品質を継続的に改善する。

6. 製品の安全輸送に取り組み、物流に関するトラブル、事故、労働災害を防止する

関係会社とのコミュニケーションを緊密にとるとともに、輸送品に対する理解と安全への感度を高め、物流品質を継続的に改善する。

7. 社会からの理解と信頼向上のために、社会との親密なコミュニケーションを図る

地域・社会からの理解と信頼の向上のために、地域・社会との親密なコミュニケーションを図り、開かれた事業所を目指す。

8. 最新技術や社内外の情報を活用し、継続的に改善する

最新技術や社内外の情報を広く活用し、環境安全目標を達成するため、事業所で運用している各種マネジメントシステムを継続的に改善する。

9. RC推進に関する教育を行い、自らの責任を自覚し行動できる人材を育てる

「基本に始まり、基本に戻る」
環境安全理念である「安全は企業存続の基盤をなすものであり、安全の確保は企業の社会的責任である」を遂行するために、自ら考え、気づくことを重視した教育づくりで、基本を身に付け、自ら考え行動できる人材を育成する。

2024年4月1日 三菱ケミカル株式会社 広島事業所 事業所長 清水 和博

基本方針

環境安全基本方針

三菱ケミカルは「環境安全理念」および「環境安全に関する方針」を策定し、保安防災、労働安全衛生、環境保全の活動を推進しています。

環境安全理念

1. 安全は企業存続の基盤をなすものであり、安全の確保は企業の社会的責任である
2. 環境保全と環境改善を企業の使命とし、人と地球に優しい企業を実現する

環境安全に関する方針

1. 法令はもとより企業倫理を含めた社会的ルールを遵守する
2. 事故及び労働災害のゼロを追求する
3. 地球温暖化防止及び自然環境保護のために環境負荷を低減する
4. 環境安全に関する教育を行い、自らの責任を自覚し行動できる人材を育てる
5. 社会からの理解と信頼向上のために、社会との親密なコミュニケーションを図る
6. 最新技術や社内外の情報を活用し、継続的に改善する

広島事業所の目指す姿

Purpose

KAITEKI社会の実現に貢献する事業所へ
～ 持続可能な社会の発展に高い技術力とものづくり力で貢献 ～

MOS

安全環境

保安と安全を確保し、自然環境との調和
および地域との共生を大切にする事業所

MOT MOE

技術 ものづくり

夢ある技術・製品を生み出し
新たな価値を発信する事業所

Our Way

マインド プロセスを経て 成果をもたらす

働く人ひとりひとりが誇りと熱意を持ち
切磋琢磨して成長し続ける事業所

4 KAITEKI広島事業所の実現

広島事業所ではKAITEKIな社会の実現のため、2021年度から2025年度における中期計画「O'Take現場力25」を策定し活動を推進しています。安全文化向上、リスク管理・危機管理強化、設備管理強化を図り、デジタル技術を駆使して、ものづくり活動、人材育成、事業所競争力強化、サステナビリティ・マネジメントの取り組みを推し進めることで、KAITEKIな広島事業所を実現します。



「O'Take」

大竹の地にちなんで「おおたけ」と読みます。同時に、様々な切り口で発掘した「災害やロス」を「0:ゼロ」にしていこうという意味を込めて、「ゼロテイク」とも読みます。

5 環境保全について

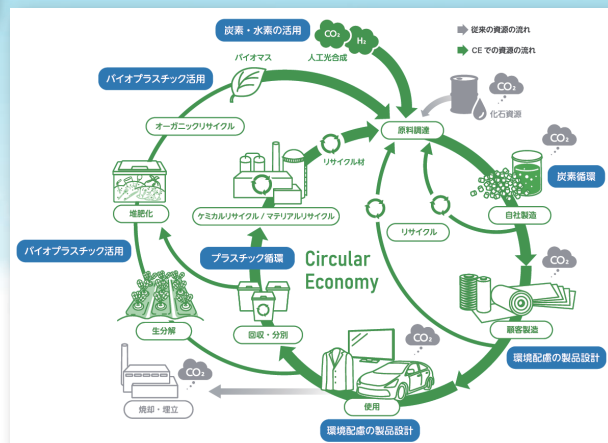
サーキュラーエコノミーへの取り組み

世界は、気候変動や人口増大に伴う諸課題など、多くの解決すべき課題を抱えています。

化学の技術は様々な社会課題を解決できる大きな可能性を有しており、三菱ケミカルは、社会の一員として、また総合化学メーカーとして、これらの課題に正面から向き合ってきました。リサイクルを含む資源の有効活用や再生可能原料の使用などをはじめとするサーキュラーエコノミー（循環型経済）を推進することにより、社会からの要請に応えつつ持続可能な成長をめざしていきます。

広島事業所では、サーキュラーエコノミー委員会を設置し、CO₂の大幅削減、VOC（揮発性有機化合物）の大気放出量削減、排水中のCOD（化学的酸素要求量）負荷削減などの活動に取り組んでいます。

また、サーキュラーエコノミーへの日常的な取り組みとして、社外との連携を強化しながら、ペットボトルの循環に向けた活動などを行っています。



社内におけるサーキュラーエコノミーへの取り組み例 ～ペットボトルの循環に向けた活動～

広島事業所には十分な能力を備えた焼却場があり、事業所内で発生する一般ごみも焼却場で焼却処分をしています。これまで飲料ペットボトルも同様に焼却していましたが、ゴミの分別およびリサイクルを主軸に置いたサーキュラーエコノミーへの取り組みとして、分別・回収し、リサイクル業者へ引き渡すことによるペットボトル循環への取り組みを、2022年より開始しています。



各職場の分別回収BOX



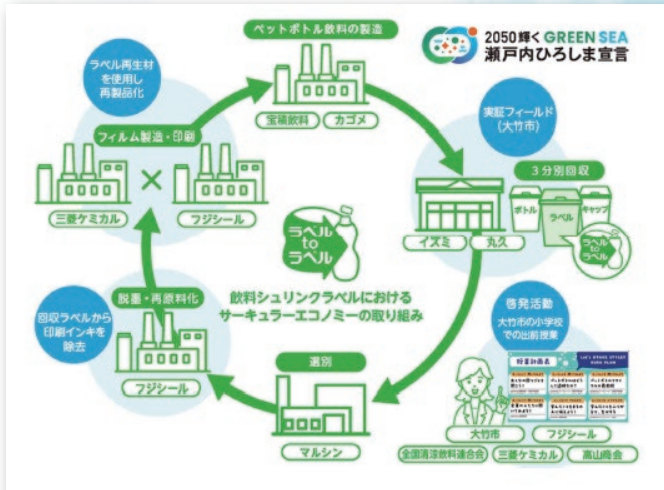
集約したペットボトル



集約したキャップ

社外との連携によるサーキュラーエコノミーへの取り組み例 ～リサイクルラベル回収実証プロジェクト～

広島県主催の「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム(GSHIP)」の支援を受け、地域および本社と連携したリーディングプロジェクトに参画しています。ペットボトルの3分別を起点としたプラスチックリサイクルに関する意識向上と、三菱ケミカルで製造しているペットボトルラベルの水平リサイクル技術の確立をめざし取り組んでいます。



2023年度の活動スキーム

2022年度は、小学校への出前授業を皮切りに大竹市内での分別・回収の啓発を行い、そこで集まったラベルをラベルに再生する水平リサイクル技術の確立に向けて活用しました。

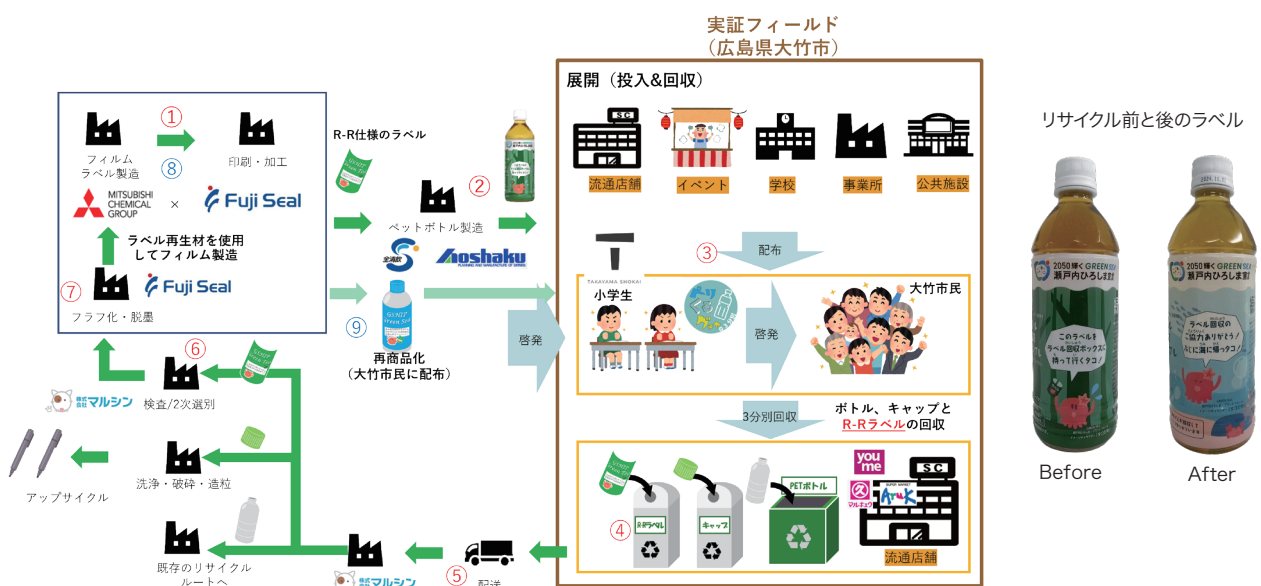
2023年度はより実装に近い形で循環プロセスを回すべく、大竹市内のイベント等を利用して、リサイクル可能なラベルを巻いたペットボトル10,000本を配布。そのラベルを回収して再びラベルに戻す実証実験を行いました。



大竹市内のイベントでの様子



小学校への出前授業の様子



リサイクル前と後のラベル



Before



After

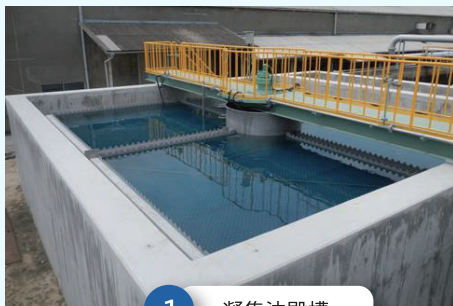
2024年度も広島県の支援を受け、ペットボトルラベル回収の多様化とリサイクル技術の向上を通じたラベルtoラベルの実現に向けて活動を行っています。

環境関連施設の紹介

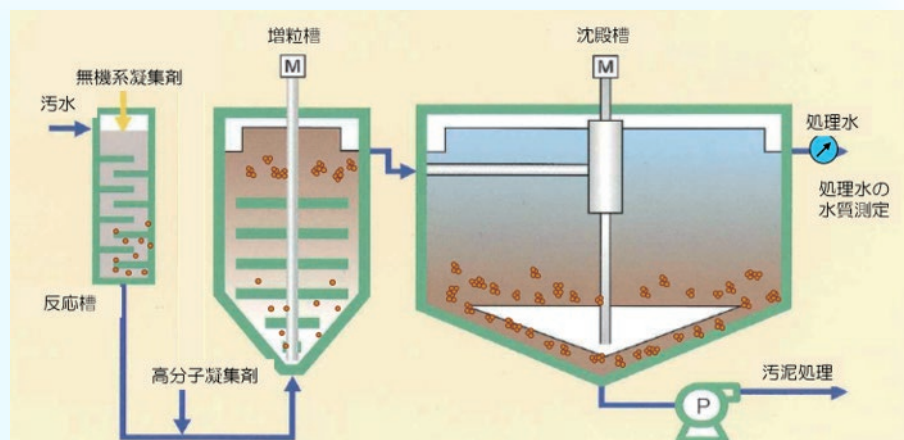
広島事業所で発生する排ガスや污水は、事業所内の様々な設備で無害化、負荷低減、浄化などを行い、環境への負荷低減に努めています。排ガス、污水の処理施設についてご紹介します。

凝集沈殿処理設備

微細な浮遊状物を大きな塊にして除去します。



1 凝集沈殿槽



凝集剤により浮遊物の塊を形成

浮遊物同士を集めてより大きな塊を形成

浮遊物を沈殿させて分離

回収設備

5 吸収塔



有害大気汚染物質アクリロニトリルの回収設備。ガス状の物質に水のシャワーをかけることで水に吸収させて回収し、再利用しています。

無害化設備

6 蓄熱式燃焼脱臭装置 (RTO)



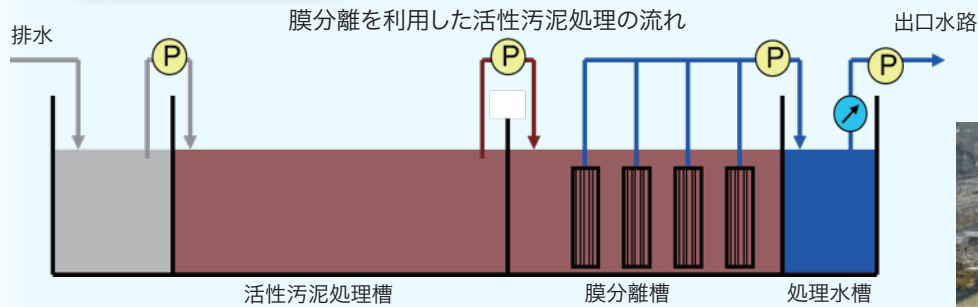
7 蓄熱式燃焼脱臭装置 (RTO)



化学物質を含んだ排ガスを燃やして分解することで無害化された状態で大気中へ排出します。

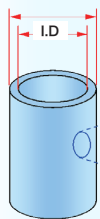
活性汚泥処理設備

微生物により排水中の汚れを分解し、浄化します。



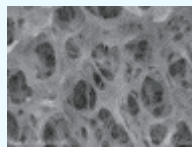
生物により排水中に溶けた有機物を分解

活性汚泥と処理水を膜で分離



膜の拡大図

微細なスポンジ状or軽石状の空孔



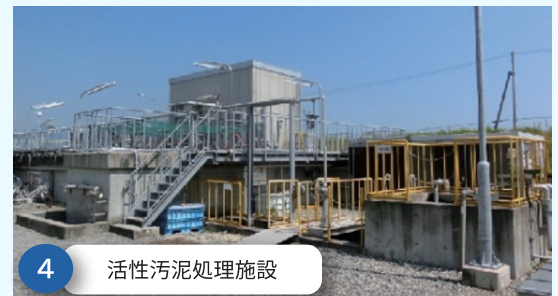
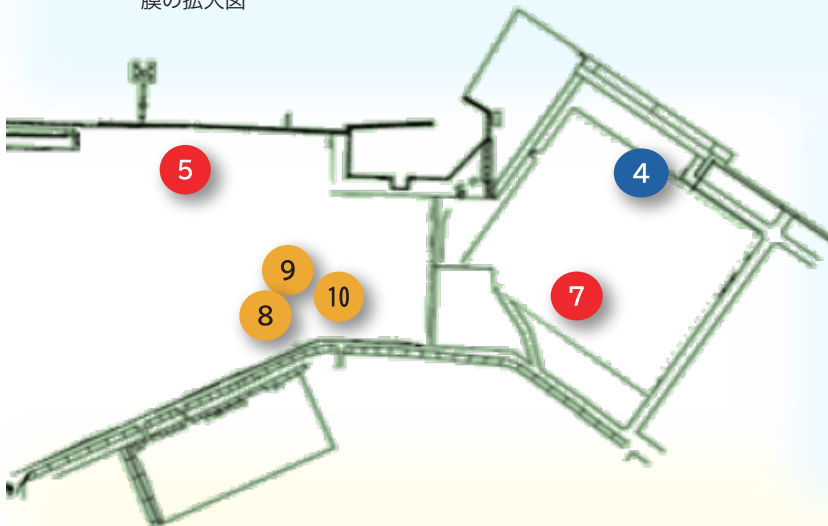
膜ユニットの様子



2 活性汚泥処理施設



3 活性汚泥処理施設

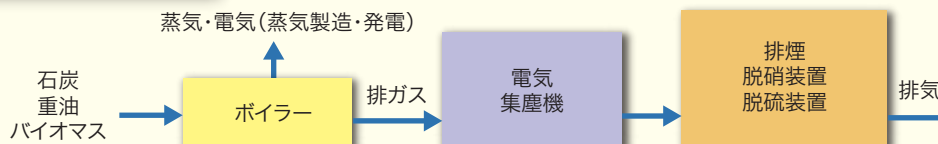


4 活性汚泥処理施設

微生物によって分解する物質が異なるため、排水の特徴に合わせて複数の施設を運用しています。

ばい煙処理設備

蒸気の製造や発電時に、燃料を燃焼することで発生する物質を除去します。



白い煙はほとんどが水蒸気です。



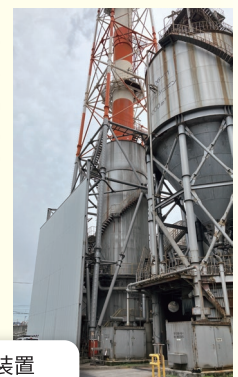
8 電気集塵機

排ガス中のばいじんを帯電させ集塵極に集めて除去します。



9 排煙脱硝装置

アンモニアと触媒を使用して窒素酸化物を窒素と水に分解します。



10 排煙脱硫装置

排ガス中の硫黄酸化物を水酸化マグネシウムで吸収し除去します。

環境データ

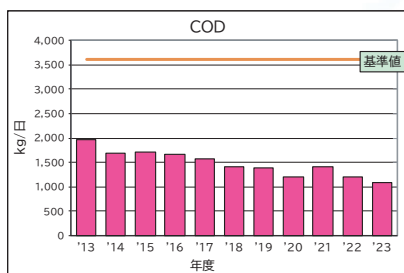
排水の管理

工場で発生した汚水を事業所内で浄化し、公共水域へ排出しています。

汚水を浄化する施設には、汚水中に浮遊している物質等(SS)を取り除く「凝集沈殿処理施設」、微生物により汚水に溶けている汚れを取り除く「活性汚泥処理施設」があります。

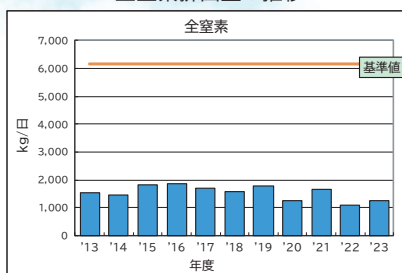
汚水はこれらの施設で浄化され、公害防止に関する協定で定められた排出基準や、瀬戸内海環境保全特別措置法で許可された基準値以下で排出するように管理しています。

COD負荷排出量の推移



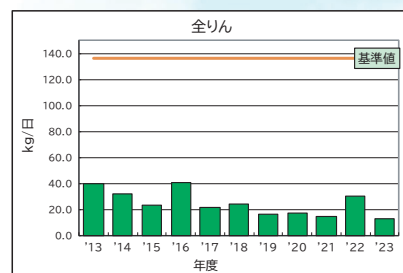
COD (Chemical Oxygen Demand)
化学的酸素要求量といいます。有機汚濁物質等による汚れの度合いを示す数値で、水中の有機汚濁物質を酸化するときに消費される酸素量を示します。

全窒素排出量の推移



全窒素
水中に含まれる窒素化合物の総量をいいます。無機態窒素と有機態窒素に分けられ、水の富栄養化の程度を表す指標の一つです。

全りん排出量の推移



全りん
水中に含まれるりん化合物の総量をいいます。全りんは無機りんと有機りんに分けられ、窒素と同様に富栄養化の程度を表す指標の一つです。

瀬戸内海環境保全特別措置法

1970年に水質汚濁防止法が制定されましたが、瀬戸内海では赤潮が多発し、広域化するなど水質汚濁が深刻な状況でした。そのため、1973年に臨時措置法として制定され、後に恒久法となった法律です。

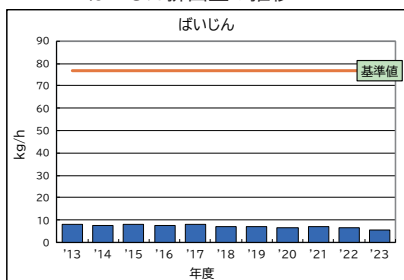
産業系排出水の規制強化と許可制が特徴です。広島事業所は、排水口ごとに一部の水質項目の濃度、排水量、COD、全窒素、全リンの排出総量は許可制となっています。

排ガスの管理

発電用ボイラーを運転し、事業所内に電気や蒸気を供給しています。

燃料の燃焼により、ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物が発生しますが、電気集塵装置によるばいじんの除去、排煙脱硫装置による硫黄酸化物の吸収および排煙脱硝装置による窒素酸化物の分解を行い、公害防止に関する協定の基準、大気汚染防止法規制値を遵守しています。

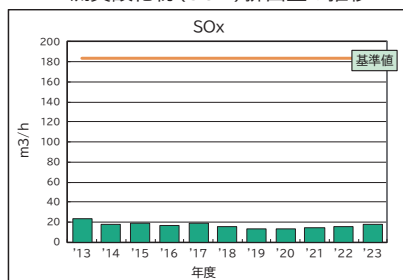
ばいじん排出量の推移



ばいじん

石炭や石油系の燃料の燃焼に伴い発生するすす等の固体粒子をいい、このうち大気中に排出された後、重くて地上に降りてくるものを降下ばいじんといいます。燃焼以外から発生する固体粒子は、法的には「粉じん」として区別しています。

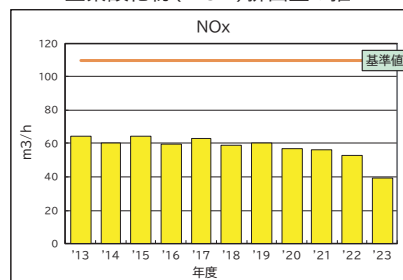
硫黄酸化物(SOx)排出量の推移



硫黄酸化物

硫黄と酸素が結合してできるものをいい、二酸化硫黄(SO₂)、三酸化硫黄(SO₃)等があります。大気汚染の主要原因と考えられているものの大部分は二酸化硫黄で、酸性雨の原因物質の一つでもあります。

窒素酸化物(NOx)排出量の推移



窒素酸化物

窒素酸化物は、空気中で石油や石炭等の燃焼、合成、分解等の処理を行うとその過程で必ず発生するもので、その代表的なものは、一酸化窒素(NO)と二酸化窒素(NO₂)です。光化学オキシダント発生の要因の一つでもあります。

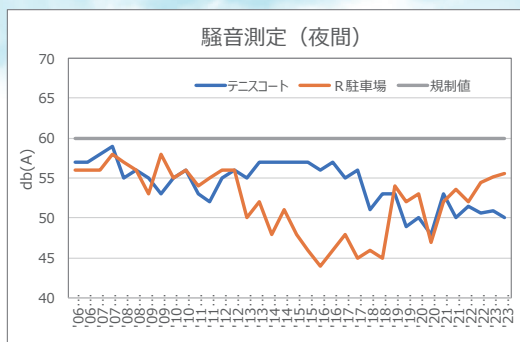
大気汚染防止法

1968年に制定され、大気汚染に関して国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全すること等を目的とした法律です。固定発生源(工場や事業場)から排出又は飛散する大気汚染物質について、物質の種類ごと、施設の種類・規模ごとに排出基準等が定められており、大気汚染物質の排出者等はこの基準を守らなければなりません。

敷地境界の騒音及び臭気測定

広島事業所は住宅地に近接しており、騒音や臭気に伴う法規制を遵守し、近隣の生活環境に影響が及ばないよう自己管理を行っています。騒音については、実態調査や騒音対策を計画的に進めています。

騒音測定の推移



臭気測定結果(2023年)

物質名	規制値(ppm)	測定結果(ppm)	
		測定値	検出下限界
スチレン	0.4	検出下限界以下	0.1
アンモニア	1	検出下限界以下	0.1
トリメチルアミン	0.005	検出下限界以下	0.001



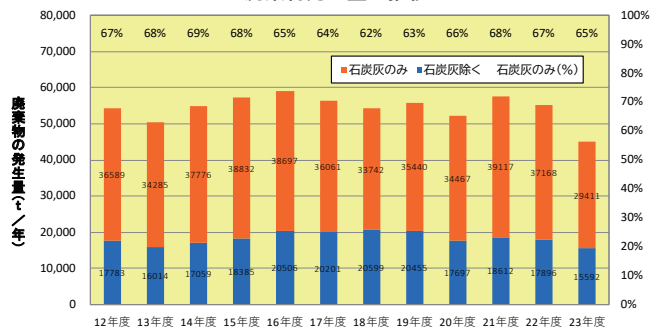
テニスコート横の
騒音測定

廃棄物の管理

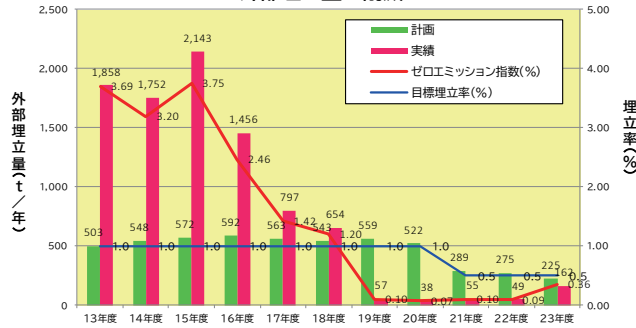
広島事業所で発生する廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正処理に努めるとともに、発生量の削減、リサイクル等を推進し、最終処分での埋立量を限りなくゼロに近づける活動を続けています。

廃棄物の処理は、法律が要求する排出事業者責任に基づき、大半の廃棄物を事業所が保有する「焼却炉」で焼却処理を行い、外部での委託処理の際には、適正な処理業者へ委託し、法に準拠した形で処理を行っています。

廃棄物発生量の推移



外部埋立量の削減



廃棄物の処理及び清掃に関する法律

「廃掃法」や「廃棄物処理法」と呼ばれ、廃棄物の排出を抑制し、廃棄物を適正に処理して生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全・公衆衛生の向上を図ることを目的とする法律です。

排出事業者責任

廃棄物処理業者に産業廃棄物の処理を委託した場合であっても、排出事業者には処理責任があることになり、最終処分が終了するまでの一連の処理が適切に行われるために必要な措置を講ずるよう努めなければならないとされています。

埋立率

廃棄物発生量に対する埋立量の割合で、広島事業所では「1%以下」を目標として掲げ、従来埋立処分していた産業廃棄物を再資源化等で埋立量の削減に努めています。

2021年度からは、この埋立率の目標を「0.5%」として取り組んでいます。

ゼロエミッション指数

廃棄物を資源として有効活用することで、最終処分場における埋め立て量を減少させ廃棄物を限りなくゼロにしようとする取り組みです。

国際持続可能性カーボン認証「ISCC PLUS認証」の取得

2023年度に、持続可能な製品の国際的な認証制度のひとつであるISCC (International Sustainability and Carbon Certification[国際持続可能性カーボン認証]) PLUS認証を下記製品で新たに取得しました。本認証はリサイクル原料やバイオマス原料などが、製品製造を含むサプライチェーン上で適切に管理されていることを担保するものです。このたびの認証取得により、マスマン方式を活用した下記製品の取り扱いが可能になります。

会社 拠点	製品	取得時期
三菱ケミカル株式会社 広島事業所	MMA モノマー「アクリエステル™M」	2023 年 7 月
	メタクリル酸(MAA)	
	メタクリル酸エステル「アクリエステル™B/IB/TB/HO」	
	アクリル系コーティング材料「ダイヤナール™」 (ビーズタイプ)	
	樹脂改質剤「メタブレン™」	
	コーティング材料用メタクリル樹脂 「ダイヤナール™」(溶液タイプ)	2024 年 7 月

三菱ケミカル株式会社は、本認証の取得や認証製品の提供を通して、これからもリサイクル原料やバイオマス原料を使用したサステナブルな製品の社会実装に貢献していきます。

マスマン方式

複数の原料(例:石油由来原料と廃プラスチック由来のリサイクル原料)を混合して製品を製造する際に、使用した特定の原料(例:リサイクル原料)の割合を任意の製品へ割当てる流通管理方式です。

ISO14001更新審査の実施

広島事業所では、環境保全への取り組みであるマネジメントシステムISO14001を1999年に認証取得しました。2023年に外部機関の審査を受け、環境保全活動のPDCAサイクルが有効であると認証されています。



外部審査機関の審査にて室外機のリストを照合する様子



PDCAサイクル

Plan (計画) → Do (実行) → Check (確認) → Action (改善) を繰り返すことで、継続的な改善を促し、常に品質や安全性を改善していくための仕組みです。

6 保安防災について

広島事業所では、リスクアセスメントを通じて、災害が発生し得るシナリオとその発生確率、および災害が発生した場合の影響度を評価し、災害発生未然防止に取り組むとともに、緊急事態に備えた危機管理体制の強化に努めております。

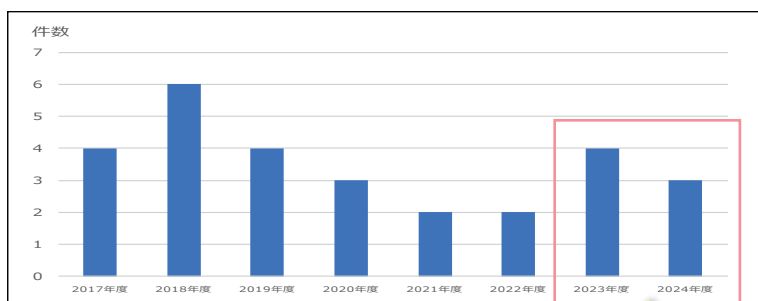
保安成績

2023年度は、所轄消防に報告義務のある異常現象は0件でしたが、報告義務のある高圧ガス保安法事故は4件発生しました。2024年度は上期までで異常現象2件（危険物漏洩）、高圧ガス保安法事故が1件（フロン漏洩）発生しており、事故の撲滅には至っていません。

2024年度は発災後の分析で直接原因は作業面とありましたが、詳細な解析によりその背景には管理面の課題が大きい事が判明したため、対策の水平展開を行い類似災害防止に繋げます。

これらの事故トラブルに対し、原因を究明し、これに基づく再発防止対策を実施することにより事故防止を図り、さらに所内外の事故・トラブル等の保安情報を活用・周知し、類似災害の未然防止に努めていきます。

保安事故発生状況



内、空調フロン漏洩 4件

リスク管理の取組み

製造工程や作業に潜む危険性を抽出しリスク評価を行うリスクアセスメントを実施し、リスクのレベルに応じた対策をとることによりリスクの低減を進めています。

環境（排水）リスクの低減では、万が一異常な排水が発生した場合、上流側で早期発見し、遮断・貯留し外部に流出させないという方針のもと、排水に対するリスク管理の強化に取り組んでいます。

リスクアセスメント

工場や研究所での危険性を特定し、それによる災害の大きさと災害の発生する可能性を組み合わせ、リスクを見積り、そのリスクの除去や低減を行う一連の安全活動です。

社外表彰

2023年度は、全国表彰において、優良ボイラー技士1名、全国化学一圧安全取扱推進賞1名受賞し、一般社団法人日本ボイラ協会より表彰されました。

また支部表彰においても、優良ボイラー技士2名、優良クレーン関係業務従事者1名が受賞し、表彰されました。

事業所としては2022年度ボイラー管理優良事業場受賞に引き続き、再度受賞できる様努力して参ります。



全国優良ボイラー技士受賞



全国化学一圧
安全取扱推進賞

自主保安力向上の活動項目

安全 基盤	規則整備
	危険性の高い作業と運転の管理 変更管理 危険減の特定とリスクの管理
	方針・体系整備
安全 文化	設備管理向上
	設備トラブルの未然防止 設備管理の高度化 協力会社機能維持
	人材育成組織文化
	人材育成 相互啓発型組織
	継続的改善
	安全文化の向上
	規則の理解と遵守 規律ある運転・作業

スマート保安

スマート保安とは、IoT(モノのインターネット化)やAI(人工知能)などの新技術、タブレット端末やドローンの活用等、DX技術によりプラントの安全性・生産性を向上させ、事業所の保安管理レベルを強化させる取り組みです。広島事業所でも、さまざまな技術を導入し、事業所の保安力強化に繋がっています。

ドローンを使用して配管や機器の点検を実施し、保安力の維持向上、作業安全性確保

before

- ・ 高所や狭い所での点検は作業者の負担が大きく、転落等のリスクもある
- ・ 人による設備状態（腐食・塗装劣化）の評価をしているため、個人差等が生じて寿命予測の精度が低い

after

- ・ 作業性の悪い場所、高所での作業を削減することで**安全性が向上した**
- ・ 有事には、安全な場所から状況把握ができる
- ・ 撮影された画像データが蓄積されるため、ビッグデータとして異常予兆に活用できる

水上ドローンによる栈橋の点検



今後の予定

画像解析によって
・ 異常検知
・ 劣化診断
の自動判定を目指す。

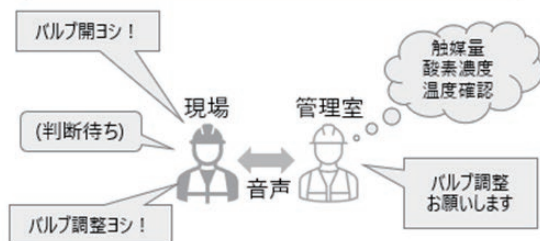
年度毎の劣化進展を定量的に評価し、中長期の保全計画に反映

必要な場所で必要な時に現場データを確認でき、伝達ミスを防止

シーン

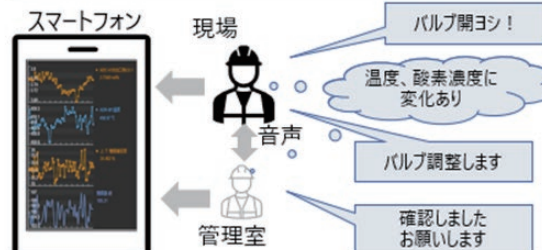
現場の手動バルブで触媒の空送量を調節するが、各計器データを現場から確認できず、管理室との細かなやり取りが必要

before



トレンドは管理室でのみ確認でき
現場は管理室からの音声指示に従い作業する

after



現場側でもトレンドを見ることができ、
相互確認した上で作業実施可能

安全文化診断

事業所では、2020年から毎年安全文化診断を実施しています。「相互理解」と「危険認識」軸に弱みがあることが判明し、その改善活動を進めてきました。

2023年度の診断結果では、「相互理解」「危険認識」のいずれも総合指標は向上しましたが、「事故及び労働災害のゼロ」は達成できていません。「事業所長対話会」や「意見交換会」等の取り組み、「危険感受性の向上」に向けた取り組みを推進し、「相互理解」と「危険認識」軸向上への取り組みの効果を確認しながら、「事故及び労働災害のゼロ」をめざします。

安全文化診断

第三者機関により診断されるプログラムであり、約100問のアンケートに対する全従業員の回答を分析することで、組織に潜んでいる課題を抽出することができるものです。

相互理解 対話による距離感解消

昨年度に引き続き、週1回の「事業所長対話会」と、月1回の「意見交換会」を実施しています。事業所幹部と現場の皆さんが対話する機会を増やし、日頃関わりの少ない他部署の人たちや異なる階層の人たちと気軽に相談することで、従業員の皆さんの心理的安全性並びにコミュニケーションの向上に繋がっています。

毎月の意見交換会では、部署ごとにテーマを選び、そのテーマについて事業所内で意見交換を行っています。意見交換は誰でも参加可能で、普段関わることのない他部署の方と意見交換することで気づきが得られるなど、参加者から「貴重な時間を過ごすことができた。」と感想を貰いました。

これらの情報はデジタルサイネージや拠点掲示板にて配信しており、事業所全体に情報共有することで他部署のよい事例を参考にするなど、自部署の活動にも役立てています。

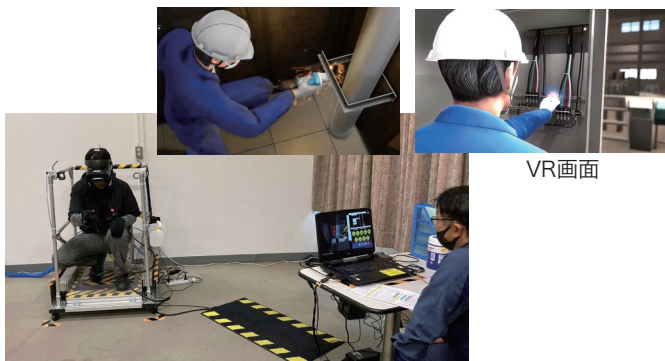


対話会および意見交換会参加のみなさんと

危険体感教育

定修工事などにおける安全への取り組みとして、定修工事で行われる作業で生じる危険（感電、切傷、災害等）について、VR（バーチャルリアリティ）技術を活用した危険体感教育を実施しています。

危険に対する意識向上に事業所全体で取り組んでいます。



VR画面

VRを利用した危険体感教育の様子

協力会社入門教育

広島事業所で実施する工事または作業に従事する協力会社の方々に対して、作業者の安全を確保すると共に、工事並びに作業の円滑化を図ることを目的に、毎週、安全教育を実施しています。

講義では、規則に加えて安全に関する基礎知識の理解のための一般教育と専門分野の工事に関する特別教育の他、広島事業所独自のルール等、事業所に入場するために必要な知識について説明しています。

2024/7/24現在、1475日ゼロ災害を継続し、安全に作業に取り組んでいただいています。



入門教育の様子

2024年10月より協力会社向けの事業所入門教育が対面からWEBに変わりました。

防災の備え

広島事業所では、能登半島地震の影響より、保安事故や災害被害を最小限にするための拡大防止措置と、発災時の緊急時連絡体制、行動・避難に関する対応を定めた規則の見直しを行っています。

また、自衛防災組織を編成し、発災時は事業所長を本部長とした災害対策本部を立ち上げて対応しており、夜間・休日においても初動活動がとれる体制を整備しています。

大規模地震や津波、風水害などの自然災害においても同様の対応を整備しています。



災害対策本部の様子

防災訓練



総合防災訓練の様子

自衛防災組織訓練として、所轄消防と連携した年2回の総合防災訓練と年1回の地震・津波避難訓練を実施しています。訓練後に反省会を行い、活動や資機材の課題に対し継続的な改善を図っています。

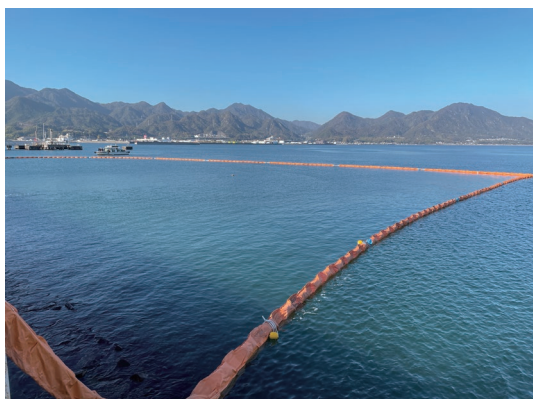
その他にも、岩国・大竹地区特別防災協議会(10事業所)による「大規模災害」に対する合同防災訓練により防災連携を強化しています。



大竹市との合同訓練の様子

防災活動の強化

防災活動強化のため、さまざまな想定をもとに訓練を行っています。



オイルフェンス展張訓練
海上漏洩事故発生時における
防災活動の強化及び迅速化を行っています



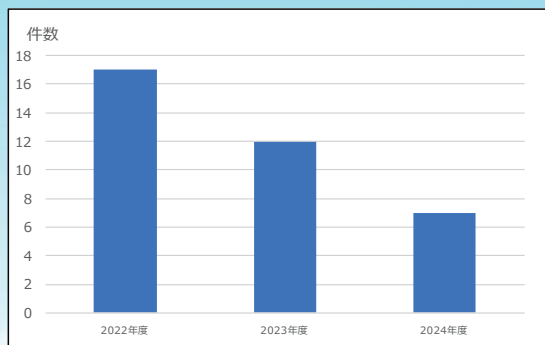
消防技能コンテスト参加
石油コンビナート等における自衛防災組織の技能及び
士気の向上をもって防災体制の充実強化を図っています

7 労働安全衛生について

安全成績

2024年度上期は熱中症4件、経験年数半年未満の労災が2件発生しています。熱中症に対する作業環境の改善を毎年計画的に行うこと、指導者が経験の浅い作業員へKnow Why(ノウホワイ)と合わせて正しい操作方法を指導すること、安全に作業できることを確認してから作業させること、などに取り組んでいます。

労災発生状況(グループ会社、協力会社の労災含む)



三菱ケミカルグループにおける健康経営について

2023年8月「MCGグループの健康経営」が新たに制定されました。

この考え方に基づき、従前から取り組んできた「従業員の皆さんが心身ともに健康でいきいきと働くことが、生産性と創造性を高め、企業価値を高める」という理念はこれからも変わることはなく、今後は“One Company, One Team”の考え方のもと、MCGグループの健康経営として展開していきます。

MCGグループの健康経営

■定義:MCGグループのPurpose実現を担う従業員一人ひとりのWell beingの向上を健康の側面から支援して組織と人の活躍を最大化する取り組み

■基本方針:

1. 私たちは、Purpose実現に向けて、自らが健康であるように努めます
2. 私たちは、一人ひとりが自らの力を最大限に発揮していきいきと働くことができる職場づくりを進めます

■取り組みの3本柱:

1. 健康的な生活習慣
 - ・健診結果に基づく適切な行動、保健指導、重症化予防、がん検診促進、禁煙、運動・睡眠・食事の改善等
2. こころの健康
 - ・高ストレス者対応、ストレスマネジメント力、セルフケア・ラインケア等
3. 働きやすい環境
 - ・治療と仕事の両立、女性の健康、転倒労災防止、受動喫煙防止、化学物質管理、労働時間管理・ワークライフバランス、コミュニケーション促進 等

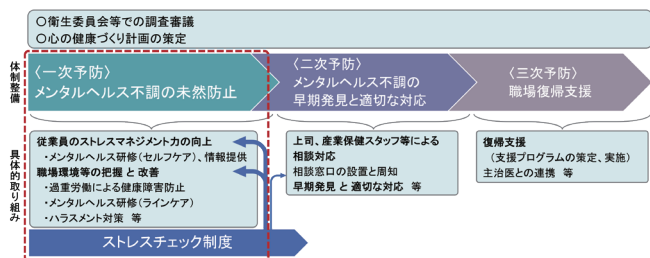
心身の健康づくり強化(こころ)

三菱ケミカルグループでは、こころの健康を健康経営の3本柱の一つに位置付けています。中でも特に注力しているのは一次予防(メンタルヘルス不調の未然防止)です。

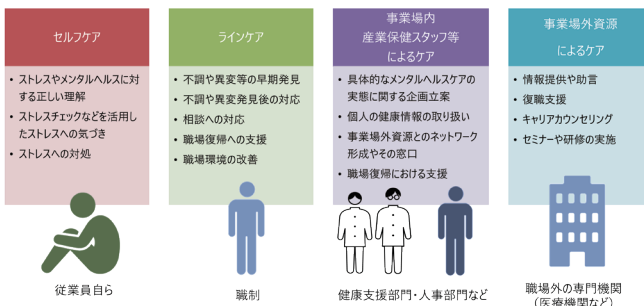
セルフケア研修では「ストレスに気づき、ストレスの要因を見つけて、他者に相談する」、ラインケア研修では「日頃から部下の様子を見て、部下の話を聴いて、適切に専門家へつなぐ」方法を継続的に学習します。不調を感じた際に早期に相談できるよう、職場毎の相談窓口を設け、4つのケア(従業員によるセルフケア、職制によるラインケア、事業所内産業保健スタッフによるケア、事業場外資源によるケア)のそれぞれが機能、連携できるような関係づくりも行っています。

MCGグループにおけるメンタルヘルス対策の体系

職場におけるメンタルヘルス対策



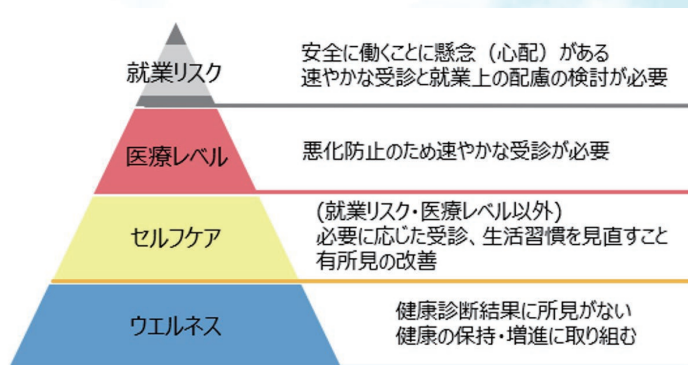
心の健康の保持増進のための指針における4つのケア



心身の健康づくり強化(からだ)

安全に働くためのベースである健康管理について、従業員が自律的に取り組むことを大切にしています。従業員は、目標設定シートの中でどうすればより健康的にいきいき活力高く働くことができるかを考え、健康に関する具体的な目標を毎年掲げ行動しています。

健康診断結果に応じて、健康上のリスクが高い従業員については、健康支援部門より適切な受診や生活習慣の改善を促します。必要に応じ就業上の配慮を検討し、ハイリスク該当者および職場の安全確保を行っています。



毎日時間を決めてケミカルグループ体操を実施

また「転倒災害」に対して、設備や作業手順の改善、教育などの従来からの対策に加えて、従業員個々の“運動機能”に着目した対策を進めています。具体的には、従業員が毎日行う「ケミカルグループ体操」で“転倒しにくい体づくり（一次予防）”を進め、「安全安心体力テスト」によって従業員一人ひとりの“転倒リスク評価（二次予防）”を行っています。

“転倒リスク”が高いと判断された従業員については、体力維持・向上のための個別指導（三次予防）に加え、就業上の配慮の検討を実施します。2017年に取り組みを開始して以降、転倒経験数は年々減少傾向が見られ、体力テストの結果では転倒ハイリスク者の減少傾向が認められており、今後も安全対策、エイジフレンドリー対応の観点からも全ての年齢層で転倒しにくい身体づくりに取り組みます。

心身の健康づくり強化(働きやすい環境づくり)

従業員本人や職制に対し、健康に問題が生じた場合の重要な心構えや健康管理方法のガイドとして「就業支援プログラム」を策定し、展開しています。休業から復職までの流れをあらかじめ明確にすることで、従業員が円滑に職場復帰できるような仕組みと、職場づくりを行っています。

また、治療と仕事の両立を希望する従業員が、安心安全に活躍できるよう、事業所内に両立支援コーディネーターを3名配置し、身近な相談相手として本人と職場を支援する体制をとっています。

定期的に「治療と仕事の両立支援何でも相談会」を行い、当事者はもちろん、今後のことを想定して職制、職場の仲間、家族それぞれの備えとしての相談もできる機会となっています。

もしもの事態への対応力強化



心肺蘇生法の実技訓練の様子

職場で起きるかも知れない「もしもの事態」に備え、事業所で育成した“救急トレーナー”が中心となって職場単位で心肺蘇生法の実技訓練を行っています。コロナ禍に作成した動画コンテンツを自己学習教材として活用しつつ、対面での教育を再開し安全で安心な事業所をめざします。

熱中症対策

近年、地球温暖化の影響で、国内では4月下旬から10月下旬にかけて、熱中症発症リスクの高い日が増え続けており、労働環境にも多大な影響をもたらしています。

広島事業所では2022度に引き続き、働く仲間の安全と健康を守るべく、安全衛生関連用品メーカーの方にもご協力いただき、「熱中症対策製品並びに化学物質対応保護具の展示会」を開催しました。開催当日は、従業員だけでなく、協力会社など大勢の方が会場に足を運ばれ、実際の製品を試着したり、メーカーの方と直接相談したりと、大変好評でした。

引き続き、事業所内への製品の水平展開を実施し、労働災害防止に努めていきます。



熱中症対策グッズ



クールジャケット着用



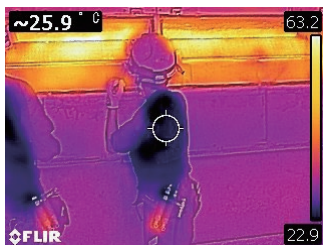
展示会の様子

保護具を使用すると、体の熱放散を妨げ熱ストレスを増大させる可能性があり、WBGT値に適切な補正値を加える必要があります。比較的年齢が高く、基礎疾患を持っていると熱中症に掛かる割合が高い傾向にあります。保護具を重ねて着用する作業は危険度が増すため、無理をせず少しでも異変を感じたら作業を中止し報告、休憩が必要です。作業エリアでは体に装着する熱中症対策グッズを使用しています。

冷媒不要で圧縮空気のみで冷却し防爆エリアでも使用可能な
熱中症対策グッズを着用した時の温度変化



未着用時(33.4°C)



着用時(25.9°C)

各保護具着用時は+6.5程度となり、
WBGT値が25でも補正値は31以上になります



近年の熱中症事例の解析から、その発症原因としては、①環境リスクが高かった、②環境リスクは低いが高年齢層であった、③基礎疾患があった、④睡眠不足や体調不良の自覚症状があった等に分類されます。

WBGTによる作業環境管理や作業前の体調確認などは習慣化していますが、自身の健康管理や慢性的な疾患は見落とされがちです。

熱中症対策の推進として、作業環境の向上を進めながら、「防ぎ得た熱中症をなくす」「重症化を予防する」ための健康管理に関する事項について、職場や従業員への教育等、今後も課題として対応していきます。

臨床研修医教育への協力

地域の総合病院の医師臨床研修に係る協力施設として、事業所における産業保健研修の受け入れを実施し、産業医の業務を学ぶことを通して働く人やその環境に目を向けた関わり方を学ぶ機会を提供しています。地域医療を担う医師の育成に関わることで、地域医療の発展に資することをめざしています。



臨床研修医による従業員教育の様子

新入社員教育

新入社員研修では「社会人としての自覚」「心構え・マナー」「事業所規則を理解し、安全に作業を行う」ために必要な「知識」「技能(スキル)」「基礎態度」を身に付け、安全に対する意識を高め、安全に作業を行うための基本行動・基本操作が確実に出来るようになる事を目的として教育を行っています。

研修は座学だけでなく、意見交換をするグループワークや、安全実技体験も行っています。



グループワークの様子



安全実技体験の様子

8 化学品・製品安全について

品質保証の取り組み

広島事業所では品質保証に関わる全ての人がしくみを理解し、信頼性向上に向けた取り組みを行っています。

品質保証を全員が担う

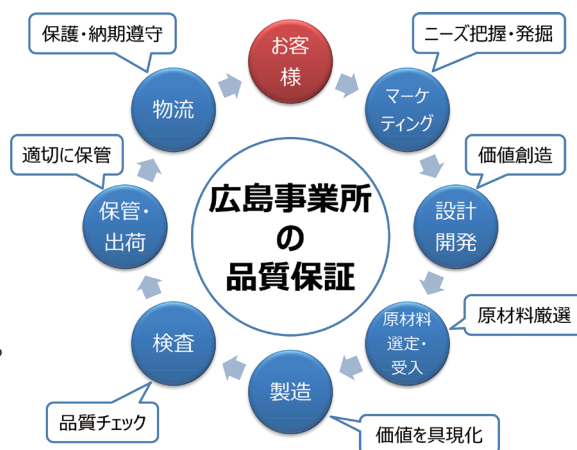
設計、製造、検査、物流など、サプライチェーンに関わる全員が品質保証を担っています。

品質保証のしくみを運用

品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001や、航空宇宙の品質マネジメント規格であるJIS Q 9100の認証を取得し、運用することで、お客様に安心をお届けしています。

品質データの信頼性向上

検査では品質データの信頼性向上を図るため、検査自動化や、データの自動処理などを推進しています。



品質マネジメントシステム(ISO9001、JIS Q 9100)の運用

2023年からはISO9001と環境に関する国際規格であるISO14001のマネジメントシステムとの統合運用を開始しました。これにより「品質」「環境」と個別にフォーカスするのではなく、より網羅的な視点で事業所一丸となって諸活動を推進しています。2024年5月にはマネジメントシステムの統合運用に関する審査を受け、有効であると認証されました。

品質データの信頼性向上

近年、企業の品質データ改ざんや製品検査の未実施などお客様の信頼を揺るがす事案が発生しています。広島事業所では、検査の自動化や検査データの自動処理を進めることで、人が介在する機会を減らし、ミスや間違いの未然防止に取り組んでいます。

例えば、製品の色味を人の目で判定する方法から測定装置で色味を数値化して判定する方法に切替える検討を進めました。この測定方法の変更についてお客様にも認めていただき、運用を開始しています。



9 物流安全について

製品の物流を安全に行うために



「物流部会」の様子

事業を行う上で原燃料等の入荷や製品出荷を伴いますが、それらを安全・安定に行うためには、運搬に係る協力会社との連携が必要不可欠です。協力会社の皆様と「物流部会」「船舶安全協議会」等を定期的に開催し、各社と安全運行・安全作業に関する取り組みについて情報共有を行っています。

広島事業所は海に面した事業所であり、事業を行う上で、海上輸送はまさに生命線であり重要な役割を果たしています。皆様に安全・安心・安定をお届けできるように、これからも協力会社と連携し、【より良い広島事業所】となるよう努めます。

車両の安全確保

作業や収集運搬のため、日々多くの車両が事業所内に入場しています。車両が油などの漏洩を早期に発見できるように、入場時および退場時には随時点検を実施しています。

事業所内を安全に走行することはもちろん、退場後の公道走行時にも配慮しています。



三菱ケミカル物流棟 受付

10 事業所内活動の紹介

女性三交替勤務者採用

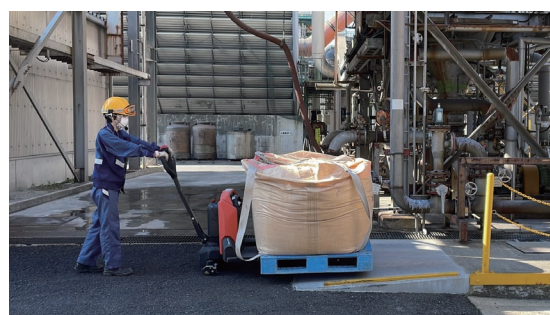
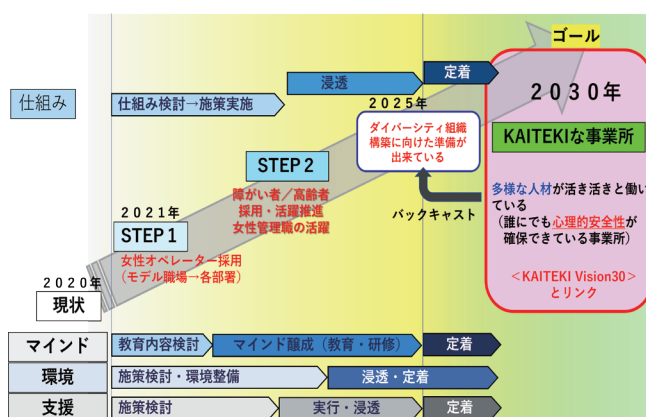
多様な人材が活き活きと働いている「KAITEKI」な事業所をめざすため、ダイバーシティ推進による職場強化・事業所競争力強化の施策の一つとして、2021年度より女性三交替勤務者の採用を開始、2024年度現在、9名の女性三交替勤務者が活躍しています。

女性交替勤務者が配属された職場では、女性からの目線を取り入れた職場改善を推進しており、写真のような重量があって容易に運べない物でも、電動リフターを導入することにより、一人で安全に運搬作業ができるようにするなど工夫や改善を重ねています。

このように、重筋作業の軽減や職場環境の改善により、労災の未然防止の他、定年延長でも長く安全・安心に働くことができ、性別・年齢に関係なく働きやすい職場づくりに繋がっています。

また、ハラスメントなどのコンプライアンス意識も向上し、「職場の雰囲気良くなった」といった声も上がり、良い効果が生まれています。

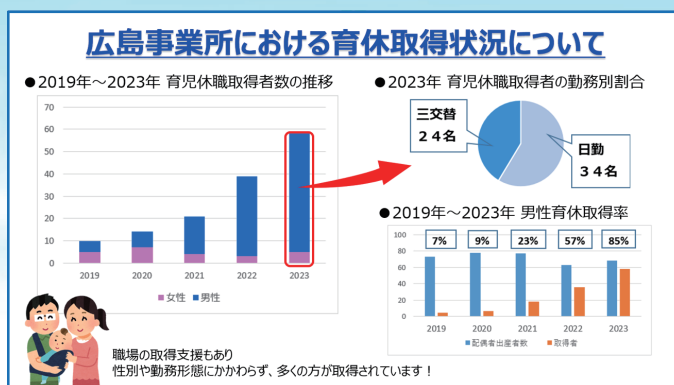
ダイバーシティ推進ビジョン（広島）



女性による電動リフター運搬作業の様子

育児休職取得推進に向けた取り組み

広島事業所では、性別を問わず誰もが育児休職（以下、育休）を取得できるよう、育休取得推進に向けた取り組みを行っています。育休取得者数は年々増加しており、特に男性の育児休職取得率は、2019年の7%から、5年間で85%へ大幅増になっており、性別・勤務形態を問わず、多様な従業員が育休取得できる環境が整ってきました。



広島事業所における育児休職取得状況の推移

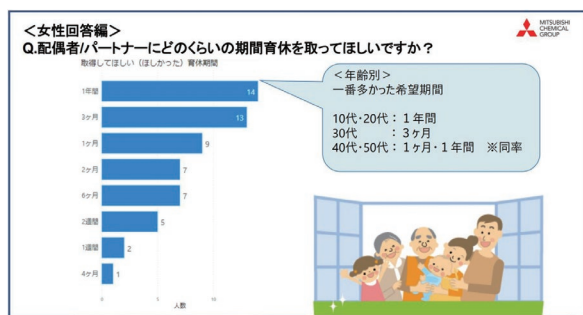
これまでの主な推進活動実績

・従業員に分かりやすい制度・手続き説明資料の作成

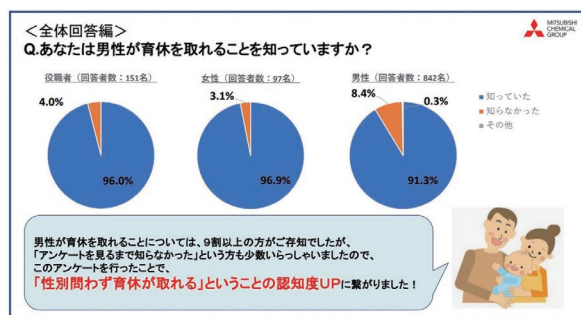
育休を取りたくても、制度が分かりにくい、手続きが難しそう、育休中の収入が不安、誰に相談したら良いか分からない、といった様々な疑問・不安を持つ従業員向けに、「育児休職手続きリスト」「職制向けマニュアル」「Q&A集（お役立ち情報）」を作成しました。

・育休取得に関する意識調査と結果の周知

事業所内の従業員の育休に対する率直な意見をアンケートで調査し、結果を事業所内に公開しました。情報公開により、従業員の育休取得に関する認知度UP、誰もが育休をとることが当たり前の雰囲気の醸成につながっています。



アンケート調査結果のグラフ①



アンケート調査結果のグラフ②

MCC全社ポータルサイトへの掲載

これまで広島事業所で行ってきた育児休職取得推進の取り組みが、全社の参考になる事例であるとして、2024年6月、MCC全社ポータル／人事サイト／多様な人材の活躍支援ページに掲載されました。

育児休職取得推進にあたってはまだ課題もありますが、広島事業所だけでなく、全社一体となって改善に努めていきます。



全社掲示板での取り組み状況掲載

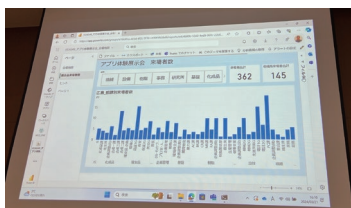
DX実務者交流会

～アプリ体験を通じて市民開発の実践力を高め、新たな創造を促す～

デジタルの活用推進と交流を目的に「DX実務者交流会」と題して、市民開発アプリ体験・展示会を開催しました。ポスター発表形式では、直接開発者本人が説明し、多くの来場者が実際にアプリを体験して熱心に開発者に質問する様子が見られました。



会場の様子



DXを活用し来場者数をリアルタイムに発信



開発者からの説明を聞く様子



Microsoft PowerApps を利用すれば
パソコンだけでなくスマホで入力などが可能になります

市民開発

従業員による社内の業務効率化を
めざしたシステム開発のことです。

従業員主体の厚生行事

広島事業所の中期計画活動の8本柱である「人材育成 - エンゲージメント向上」「サステナビリティ・マネジメント - やりがいの向上」に資する活動として、従来は会社主導で行っていた厚生行事を、2023年度から、従業員が主体的に企画・運営しています。

従業員が主体となって企画・運営することで、これまでになかった、年齢・性別・属性・場所を問わない新たな行事が増え、職場を超えた組織活性化につながっています。



プロスタ(オンラインゲーム)大会



事業所内のコースを走る駅伝大会



広島発祥のエスキーツーニス大会



フィンランド発祥のモルック大会



9人制バレーボール大会

事業所内PR活動 ～ケミカルを好きになってもらい隊～



「好き隊」メンバーの皆さん

「ケミカルを好きになってもらい隊（通称：好き隊）」は、広島事業所内の横の繋がりを強固にすべく【ケミカルに関わる全てのみなさんの一生懸命な姿を、多くの人に知ってもらう】ことを目的に活動しています。中期計画と連携した活動として「相互啓発活動」がありますが、普段の会社生活では知り得ない各部署の活動などを好き隊の記事として発信することで、同じ会社の仲間同士がお互いを知り、認め合い、尊重し合うことにつながり、互いに助け合えると信じて活動しています。



打合せの様子



小学校での取材風景



事業所内での取材風景

「好き隊」で取材した記事を事業所のネットワーク掲示板やデジタルサイネージ等を使って社内にお知らせしています

パラスリート山本篤選手による講演会&義足体験会、小方小学校出前授業



只今、拠点サイト展開中

大竹小・小方小・玖波小 3DP造形品の寄贈式 (ペットボトルの3分別 ～最終章～)

2023年4月24日、25日に大竹市3小学校（大竹・小方・玖波）で3Dプリンター造形品の寄贈式を行いました。その様子をぜひご覧ください。



只今、サイネージ展開中

<労使共催> 広島事業所周辺の清掃活動 2023年4月22日(土)

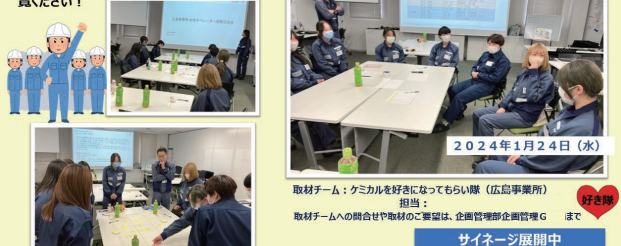


⇒ 続きは拠点サイトにてご覧ください。

取材チーム：ケミカルを好きになってもらい隊（広島事業所）
取材チームへの問合せや取材のご要望は、企画管理部企画管理G まで

広島事業所 女性オペレーター研修交流会 開催

広島事業所のダイバーシティ推進に向けた取り組みの一環として、1月24日（水）に女性オペレーター研修交流会を実施しました！当日の様子や参加者の皆さんのコメント等を拠点サイトに掲載していますので、是非ご覧ください！



2024年1月24日(水)

取材チーム：ケミカルを好きになってもらい隊（広島事業所）
担当：企画管理部企画管理G まで

サイネージ展開中

1 地域の皆様とともに

清掃活動

広島県主催の「GREEN SEA 瀬戸内ひろしまプラットフォーム(GSHIP)」の趣旨に賛同し、ペットボトルリサイクル活動(P.8参照)の他にも、海洋プラスチックごみ削減に向けた地域清掃活動などに参加させて頂いております。また、当社の工業用取水設備がある大竹市元町4丁目の川の清掃活動(自治会開催)も毎年参加させて頂いております。



鳴川海岸清掃活動



労使共済清掃活動

工場周辺地域一斉清掃

「環境月間(6月)」に合わせた大竹市工場周辺一斉清掃が、昨年4年ぶりに再開され、今年度も参加しました。普段通勤で使用する道路や港、沿岸部など広範囲にわたって清掃を実施しました。



工場周辺一斉清掃参加者



工場周辺一斉清掃の様子

パラアスリートによる義足体験教室



山本篤選手

パラスポーツの一層の普及・発展への貢献を目的に、パラアスリートの山本篤選手にお越しいただき、従業員対象の講演会、小方小学校での義足体験教室を開催しました。山本選手はパラアスリートになった経緯や試合にかける想い、チャレンジすることの大切さを語ってくださいました。

小方小学校では5、6年生を対象に、当社の炭素繊維を使用した義足を履いて歩行する体験を実施しました。子どもたちは義足で歩く難しさに驚いていましたが、山本選手からのアドバイスを受けながら夢中で練習していました。

引き続きパラスポーツの普及・発展をめざし、製品の研究および義足体験イベントを企画してまいります。



パネル展示

ケミカルフェスタ

地域と当社、地域と地域がお互いのことを知り、すべての参加者に大竹をより好きになってもらいたいという想いから、2023年度も10月28日に「ケミカルフェスタ」を開催し、多くの皆様にご来場いただきました。

周辺地域の飲食店の皆様にもご協力いただき、大竹市の名産を使った飲食・物販の出店や、当社製品を活用した工作体験教室、子どもも大人も参加できる遊び・体験コーナーを開催しました。新たな取り組みで実施したステージでは、近隣地域のパフォーマンス団体の方々の出演や、従業員が企画したコンテストなど、多彩な演出で盛り上げていました。

また、本イベントは「持続可能」を方針に掲げ、当社の生分解性プラスチックBioPBS™のカップを使用し、環境に配慮した取り組みを行いました。

地域とのつながりを一層大切にし、各種イベントを企画してまいります。



神楽演舞



ダンスパフォーマンス



殻付き牡蠣の販売



従業員の司会によるステージ



光ファイバーを使った工作コーナー



ゴミの分別回収



大竹市内からの出店販売



遊び体験コーナー



ステージを見る地域の皆様



ものづくりコーナーの様子



自転車ロードレースプロチーム
「ヴィクトワール広島」の選手

中学生・高校生を対象とした職業体験学習

大竹市の中学2年生を対象に行われる職業体験学習「キャリア・スタート・ウィーク」が4年ぶりに実施され、大竹中学校5名の生徒に当社の取り組みや働き方を体験していただきました。近隣の高校生の事業所見学も再開し、当社の概要や製品を通して、「働くこと」について紹介しました。



中学生の事業所内見学の様子



高校生の事業所訪問の様子

らんらんカレッジ(サマースクール)

大竹市では子どもたちにさまざまな体験を通じて学びや心の豊かさを育むため、毎年夏休みに「らんらんカレッジ」を実施しており、当社の若手社員を中心に工作教室を開催しました。2023年度は子どもたち20名を対象に、アクリベツト™で作る「きらきらライト」を作製しました。



らんらんカレッジの様子

広島都市圏親子見学会

広島広島都市圏協議会と協力し、ふるさとの魅力体験ツアーと題した、「地域の子どもたち及びそのご家族に広島事業所の魅力を知っていただく」ことを目的に工場見学会を実施しました。事業所一周ツアー、化学消防車の乗車体験、当社製品を使用した工作教室などを企画し、26組の親子にご参加いただきました。



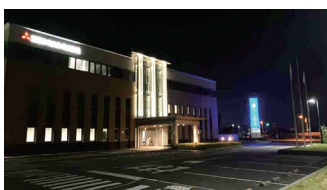
消防車庫見学の様子



光ファイバー工作の様子

ライトダウンキャンペーン

広島県と事業者が連携して消灯に取り組む「CO2削減／ライトダウンキャンペーン」に参画しました。このキャンペーンは、ライトアップ施設や家庭の不要な照明を消すことにより、県民一人ひとりが日常生活の中で地球温暖化対策を実践する契機とすることを目的にしたものです。



管理棟正面ライトダウン前



管理棟正面ライトダウン後

地域の皆様との直接対話

地域の皆様へ事業所の活動についてご説明し、ご意見・ご要望を承ることで改善につなげていくことを目的に、年に1度、事業所見学を含めた地域懇話会を開催しています。

新型コロナの5類への移行もあり、2023年度は4年ぶりに対面での開催となりました。事業所の保安・安全・環境保護・多様性への取り組み等についての説明後、参加された皆様と活発な意見交換が行われました。

地域の皆様と直接対話ができる貴重な機会であり、今後も継続してまいります。



地域の皆様との対話の様子

RC地域対話

岩国大竹地区において、「第14回RC地域対話」が2024年2月に国際観光ホテルにて開催されました。近隣企業8社と自治会、学校、官公庁関係者が参加し、意見交換では南海トラフ地震発生時の対応などについて多くの質問がありました。

2年に1度開催され、次回は三菱ケミカルが幹事会社となります。



一社日本化学工業協会の活動紹介



RC地域対話会の会場の様子

三菱ケミカル杯スポーツ大会

広島事業所では地域スポーツ振興を目的に、近隣のスポーツチームを招待し、スポーツ大会（ゲートボール大会、少年野球大会、少年サッカー大会）を開催しています。

2023年度も近隣の多くのチームに参加いただき、元気はつらつとしたプレーで、ケガもなく日頃の練習の成果を発揮していただきました。



ゲートボール大会



サッカー大会

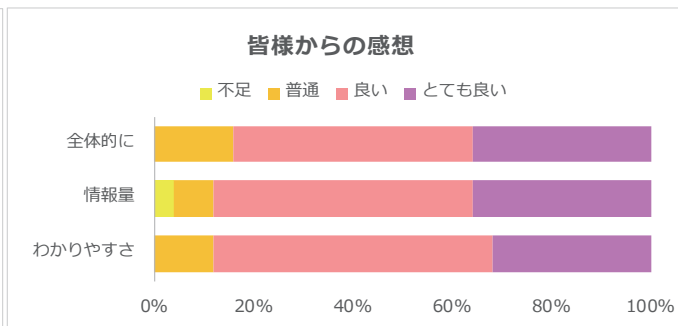
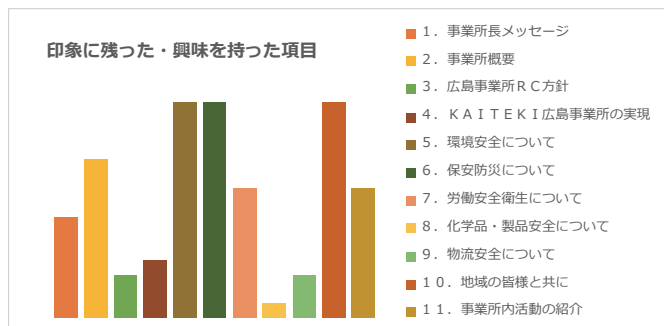


野球大会

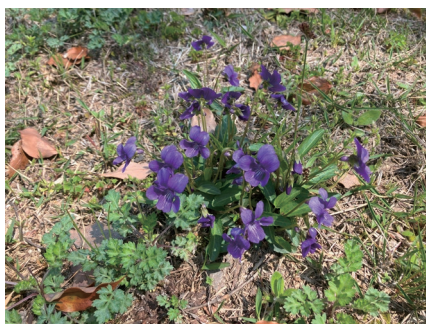
12 最後に

皆様からのご意見・ご感想

昨年発行した報告書に対し、皆様からご意見・ご感想をお寄せいただきました。
貴重なご意見を参考に、より良い活動報告書をめざします。



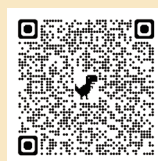
- ・大竹市の歴史そのものであり、大竹市の発展を基に約90年、今後も大竹市のレイヨンの心を大事にしてください！
- ・地域社会に貢献する取り組みを積極的に行い、地域とのコミュニケーションを取り、安全操業の維持に感謝します。
- ・これからも引き続き安全を第一に業務をお願いします。
- ・QRコードでのアンケート回収方法は「ナイス」と思いました。これからも楽しみにしています。
- ・三菱ケミカル広島事業所が目指すもの、取り組んでいるものがわかりやすく解説してあって勉強になった。
- ・字が多く細々していて読みづかった。



事業所周辺の様子

この度は、当事業所のレスポンシブル・ケア活動報告書をお読みいただき
ありがとうございました。今後の活動と報告書作成のためアンケートに
ご回答いただけますと幸いです。
こちらのURLまたはQRコードからWEBにて回答いただけます。
たくさんのご意見・ご感想をお待ちしています。

<https://forms.office.com/r/TST6q8XFvww>





三菱ケミカル株式会社広島事業所

〒739-0693 広島県大竹市御幸町20番1号

環境安全・品質保証部 環境グループ

TEL：0827-52-4217

FAX：0827-53-8503

三菱ケミカルグループホームページアドレス

<https://www.mcgc.com/>

